

Program

1. 司会挨拶

2. 「シベリア抑留とは」(小林)

3. レクチャーコンサート「シベリア抑留の音楽・文化」

(1) 「シベリア抑留の音楽・文化」概説(森谷)

(2) シベリアの日本人収容所で歌われた歌

① 楽器再現プロジェクト紹介

「浜辺のうた」 作曲：成田為三

演奏音源：宮崎桃子（ラップ付きヴァイオリン）

ハバロフスクの日本人収容所では、ある旋盤工の若者が限られた材料の中から小さなヴァイオリンを制作しました。楽器の裏板にラップを付けて音を大きくする工夫をほどこしたユニークな楽器で、「浜辺のうた」の演奏を聴いた抑留者たちは懐かしい日本の歌に涙を流したと言います。再現ヴァイオリンの音の響きを体験してみましょう。

② 日本の歌

「誰か故郷を思わざる」 作詞：西条八十/ 作曲：古賀政男

古川精一 (Vo.)、レオニード・ズヴォリンスキー (Gt.)、森谷理紗 (Pf.)

日本から遠く離れたシベリアの収容所でも様々な日本の歌が歌われていました。この曲はその一例で戦前に霧島昇が歌ってヒットした日本の流行歌です。レニンスクの収容所でアコーディオンを演奏していた元抑留者の新関省二さんによれば、朝の恒例となっていた作業場へ出発する際の演奏で、この曲をよく頼まれたそうです。

③ 日本の歌の替え歌

「異国の丘」 作詞：増田幸治/ 補作詞：佐伯孝夫/ 作曲：吉田正

古川精一 (Vo.)、レオニード・ズヴォリンスキー (Gt.)、森谷理紗 (Pf.)

シベリア抑留の代表的な歌として知られる「異国の丘」ですが、実はもともと軍歌として作曲された曲で、「大興安嶺突破演習の歌」という名前の歌でした。その後、吉田自身に「昨日も今日も」という別の歌詞が付けられ、シベリアの収容所では吉田の預かり知らないところでのメロディに別の歌詞が創作され広まっていきました。

歌詞を比較して聴いてみましょう。

④ 収容所の創作歌-1 心の歌

「ドーフ小曲」 作詞：久保正雄/ 作曲：種市蔵一

古川精一 (Vo.)

シベリアの日本人収容所の中で新しく生み出された創作歌も多く存在します。現地の風景を描いた歌、望郷の思いを綴った歌など、歌も抑留者たちの日々の思いを表現する一つの手段であったといえます。中でも「ドーフ小曲」は多くの人に歌われ、元抑留者で画家の四國五郎のフォルムリン地区を描いた作品の中にも歌詞が書き込まれています。

母に捧ぐる歌「母へ」 作詞：野町右京/ 作曲：山上晋

古川精一 (Vo.)、森谷理紗 (Pf.)、編曲

各収容所に配布された「日本新聞」紙面上では詩や戯曲などの作品コンクールが行われ公募作品がたびたび掲載されました。この詩は「日本新聞」第363号に応募作品として発表されたもので、第一地区新日本楽劇団芸部の野町右京が作詞しました。メロディと歌詞のみが残されていましたが、今回現代風に編曲を行いました。

～休憩～

⑤ ロシアの歌(異文化との出会い)

映画『シベリア物語』(1947) イヴァン・プイリョフ監督(映像)

多くの収容所では映画の上映が行われ、収容所で初めて映画を観たという日本人も少なくありませんでした。映画『シベリア物語』はソ連で二番目のカラー映画であるばかりでなく、「音楽映画」と称される通り、劇中では「バイカル湖のほとり」「シベリア台地の歌」など多くの有名な歌のシーンがあり、映画を通して多くの日本人たちがロシアの音楽文化に触れました。

⑥ 収容所の創作歌-2 民主運動の歌

「ちから」 宮長大作作曲 (1948年文化コンクール入賞作品)

古川精一 (Vo.)、レオニード・ズヴォリンスキー (アンサンブル再現)

文化活動が活発だった地区では収容所対抗の文化コンクールが開催されましたが、中でもハバロフスク地区文化コンクールは1947年から1949年にかけて3回開催されました。本作品は1948年の入賞作品で第一地区の宮長大作作曲のアンサンブル(群舞)です。民主運動の中で選ばれた曲はどんな音楽だったのでしょうか。

⑦ 日本に持ち帰られた歌

「満州の丘にたちて」 作詞：I. マシストフ/ 訳詞：笹谷栄一郎/ 作曲：A. シャトロフ

古川精一 (Vo.)、森谷理紗 (Pf.)

抑留体験者たちが収容所の中でよく歌った思い出のある曲として今でも歌われるこの歌は、原曲は1906年日露戦争で軍楽隊員として勤務していたアレクセイ・シャトロフが友の死を悼んで作曲された吹奏楽曲でした。イリヤ・マシストフの詞の響きと、笹谷英一郎の日本語の歌詞を比較して聴いてみましょう。

⑧ シベリアの抑留者に捧げる新曲

「かき消された声—ギターとライブエレクトロニクスのため—」(2022)

作曲：レオニード・ズヴォリンスキー

シベリアに抑留された日本人たちの追悼曲としてロシアの現代作曲家が今回のレクチャーコンサートのために書き下ろした新曲です。収容所の中で、声に出さ(せ)ずに心の内に大事にされていた想いや願い、気持ちをコンセプトとし、ギターとライブエレクトロニクスで演奏します。

⑨ 終わりに

出演者トーク・メッセージ